

# 学校評価の結果に関する考察

令和4年2月

## 1 成果と課題について

児童	<p><b>成果について</b>（前年度と比較して）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「4 タブレットを使うことで、授業が分かりやすくなった」の項目を追加した。98%の児童が「思う・少し思う」と答えている。学校HPで紹介しているように、授業の様々な場面でタブレットを活用するようになった。児童は、文書作成や写真撮影、画像の取り込み、ドリル学習など様々なタブレット機能を経験できた。</li><li>・「5 進んで読書をしている」児童が増えている。ひまわり号の積極的利用や読書の活性化プロジェクトの取組への参加、教師による奨励、学級文庫や図書コーナーの工夫により読書意欲の高まりがあったと考えられる。</li><li>・「11 学校の決まりを守っている」児童が増えている。全児童が「思う・少し思う」と答えている。</li><li>・「12 休み時間は外で元気に遊んでいる」「13 めあてをもって体力づくりに取り組んでいる」児童が増えている。放送委員会の呼びかけ等による外遊びの奨励により、長い休み時間に外遊びをする子は多い。夏休みの陸上練習やプール開放、体操練習など期間集中の取組に頑張ることができていた。</li><li>・「17 新野町（阿南市）というまちがすきだ」の項目を追加した。4と17は「阿南市総合計画」の成果指標項目である。97%の児童が「思う・少し思う」と答えている。来年度は、地域との交流機会を増やしたい。</li></ul> <p><b>課題と今後の取組について</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「2 自分から進んで勉強している」「14 家で□分以上学習している」の項目で、「あまり思わまい」と答えた児童が、それぞれ16%、8%増えている。児童が主体的に学習できる授業改善と、家庭学習の定着が課題である。今年度タブレットの使い方が身に付いてきたので、来年度はそれを自ら活用する機会を増やしていきたい。</li><li>・「6 家族や近所の人・友達・学校の先生にあいさつができています」について、全員「思う・少し思う」と答えている。さらに相手にしっかり伝わるあいさつができるように徹底したい。</li><li>・「8 友達に話したり9先生に相談したりしている」で「あまり思わない・思わない」の割合がやや増えている。相手の気持ちを考えて話せる児童の育成に努めるとともに、教師側も児童の話をしっかり聞き、よいところを伸ばす指導（ポジティブな行動支援）をしていきたい。</li></ul>
----	---

保護者	<p><b>成果について</b>（前年度と比較して）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「4 先生（学校）は、タブレットを分かりやすい授業や家庭学習に活用している」の項目を追加した。「思う・少し思う」が90%であった。学校での活用の様子は、HPに「タブレット学習」のページを設けて紹介しているので、見ていただきたい。夏以降は、月1回、家庭への持ち帰りを実施した。コロナ感染に伴う長期休業に備え、リモート授業についての対策が急務である。</li><li>・「10 学校は、登下校時や学校生活での安全面について対応できている」の項目は、昨年同様「思う・少し思う」が96%であった。朝の学校前横断歩道での交通指導、帰りの低学年、中高学年別に途中まで見送る下校指導、構内の安全点検は、次年度も徹底継続する。</li><li>・「11 お子さんは、楽しく学校へ行っている」「12 お子さんは、あいさつができています」は、よい評価を得ている。コロナに負けない元気な児童の育成に引き続き取り組みたい。</li></ul> <p><b>課題と今後の取組について</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「6 学校は、おたよりやお知らせ・学年通信・ホームページなどで学校の様子を知らせている」の項目は、「思う・少し思う」が9%下がっている。コロナ禍で活動制限があったが、学校・学級通信等で児童の活動の様子を知らせることはできた。ホームページについては、100回以上更新しているので、ぜひ見ていただきたい。</li></ul>
-----	--

- ・「7学校は、地域の方々と連携しながら教育活動を行っている」の項目は、「あまり思わない」が28%であった。地域との連携は欠かせない教育活動であり、主体的・対話的な学習につながる活動である。次年度は積極的に実施したい。
- ・「13自分からすすんで勉強している」「15早寝・早起き・朝ごはんができていいる」の項目は、「あまり思わない」の評価が目立つ。学校と家庭との連携が重要である。来年度の学力や生活の向上プランの重要課題としたい。
- ・内容に応じて紙媒体からマチコミメールによる家庭連絡に移行することを検討したい。(要望より)
- ・家庭連絡文書は、特別な理由がない限り、各家庭1枚とする。(要望より)

## 2 来年度に向けての学校改善について

### ○児童の基本的な生活習慣について

・「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣が身に付くよう、家庭との連携をより一層進めるとともに、規則正しい生活について保健学習や学活等を通して指導していきたい。また、メディアの使用頻度が生活習慣に影響を及ぼすことを受け、その使い方について保護者に啓発し、児童にはメディアとの上手な付き合い方について指導していきたい。

### ○学力および学習意欲向上に向けて

・児童の学習意欲向上は、「わかる授業」に尽きる。日々の教材研究の積み上げと研修テーマに沿った校内研修の充実により、子ども達にとって「分かる授業」を実践する。また、ツール（道具）としてのタブレットをどの場面でもどのように使用するのが最も有効か研究を深め、授業改善に努める。

・機能拡大が見込まれるタブレットの家庭持ち帰り機会を増やし、家庭学習充実のための手立てとしたい。

### ○家庭・地域との連携について

・来年度、町内3小中学校が連携してのコミュニティ・スクールが導入される。新野町内における連携体制を構築し、教育活動に有効に働くようにしたい。

・地域教材や地域人材を活用した体験的学習を進めることで、ふるさとを愛し、ふるさとの未来を担う人材育成に努めたい。

・コロナの影響は続くと思われる。学校行事等の実施にあたっては、子ども達の安全や学力保障を最優先に、最善の方法を話し合い、学校・家庭・地域の密な連携で対応していく。

### ○学校の安全対策について

・学校前の交通事情は、歩道が整備されているものの、速度超過や追い越しをする車が多く、危険度は非常に高い。登下校時における横断歩道の重点的指導や一列で歩く安全指導を複数名で継続して行う。学校、地域、家庭、諸機関が連携し、子ども達の命を守る取組を推し進める。

・地震や火災、不審者侵入時における避難訓練においても、様々な時間帯を想定して計画的に実施し、自ら命を守る行動がとれる児童を育成する。

### ○学校運営について

・学校経営に関して様々なアイデアを教職員から求め、組織運営に生かしていく。また、それぞれの専門的な知識や能力・適性を生かし、チーム学校として創意工夫を行い、地域に開かれた特色ある教育活動の展開を目ざしたい。

・風通しの良い職場づくりに努め、管理職のリーダーシップの下で全教職員の協力体制を整え、全ての職員で児童の指導にあたるようにする。

・緊急事態における組織的対応や問題行動防止のために早期発見等、様々な課題に対して情報を共有し、報告・連絡・相談の体制を徹底し、安心・安全で信頼できる学校づくりに努める。

